

オールフルカラー
18禁同人誌



イカ娘の侵略が地上に迫る！
これは彼女の繰り出す魔の触手に敢然と立ち向かう正義の仲間達の物語！
彼らは果たして勝利を収めることができるのか!? 題して…

イカがなものはか？

松本ドリル研究所

今日も楽しい一日だったゲソ
今夜はこの浜辺の拠点で
人類侵略の計画を練り直そうじゃないゲソ
べ：別に寂しくなんかないゲソ！
ん？変な男達がやってきたゲソ
私に変な因縁をつけてきたゲソ
なに？ 女が浜辺でそんな
けしからんカッコをするな？
条例違反？

フン
こいつらは馬鹿でゲソ
私はイカ娘でゲソ
人間のルールごときて
私を縛れるはずがないじゃないか

なんだゲソ、その目は？
この私が怖くないゲソか？
ふっふっふ、つくづく人間は愚かゲソ
この私の触手のまえに跪くゲソ！
食らえゲソ——！

…あれ？おかしいじゃないか…
触手がうまく動かないゲソ…
ん？
それは何ゲソ？
三馬鹿博士から借りてきた？
対火星光線銃？
火星なら夕コじゃないか！

あつ！
何をするゲソ！

触手を封じられたイカ娘は
あっさり男達に捕まってしまった。
ひらひらしたワンピースの下から
幼い裸体が露出したかと思うと、
男達の手がよってたかかって
彼女の身体をまさぐっていく。

おまんこ達
こころは事ごとく
タダでは済まない
ペンよ!

や、やめな
イカ!!

うっほー
幼女おっぱい
たまわぬー!

おまんこ

おっぱい

お
お

おまんこ

ムア
リア
たまわぬー……

暗がりの中で白く光る裸体に、
惹かれるように男達はイカ娘を
愛撫した。プニプニとした
弾力ある肌をもみくちゃにされ
イカ娘は抗う。
しかし抵抗むなしく股間の蕾を
刺激され、彼女はピクンと反応した。

お

ムア

頼みの綱の触手が勝手に動く。
その事実はい力娘を恐怖させ、
萎縮させる。

っほほっほ
イカちゃん
こゝろに甘んじてる

男はそう言うと、イカ娘の手を
みずからのペニスにあてがう。
堅く怒張した凶暴なソレを握らされ
反射的に触手をふるおうと意識するが、
触手は自由にならないどころか
逆にペニスを優しく刺激し
男達を悦ばせているではないか。

おおっ
尿道口青めっ
イカちゃん
マニマニうばさぬー

おほ僕も
僕も

恐怖に震える掌で
ペニスの熱さを感じてしまい、涙くむ。
しかし、股間からの鋭い刺激でそんな
感傷など消し飛んでしまう。
びたりと閉じていたスジが広げられ、
その間を舌が這う。

イカ娘の蕾から透明な汁が
糸を引いた。それは確実に
男の唾液ではないモノだった。
経験したことのない感覚に
戸惑いつつも、彼女は
彼らの行為に疑問を持ち始めた。

ぬほ
お

ニヤー
塩味キーン
ポコチー
中かんすートニシス

ニヤー
塩味キーン
ポコチー
中かんすートニシス

味覚の敏感な
舌

陰裂を指で開かれ、普段は外気に触れることすらない場所にねっとり唾液を含んだ舌が入ってくる。

イカ娘は悲鳴を上げた。

あーっ！
おしりの穴を
ほじちぢめドロー！！

それが合図だったかのよう
に男の熱い舌が股間を、性器をなめ回す。

荒い息と共にペチャペチャという恥ずかしい音が響き、イカ娘は身体を震わせて羞恥に痺れる。違う種族といえども、肉体は肉体である。性器を責められれば感じてしまう。

んんん
んんん
んんん

おーっ、
舌、失いそうにさせ

イカ娘の尻を
侵略者の舌で
しゃぶりながらゆする

ほら
も、と握るな
握るな

あまりの羞恥に一瞬気が遠くなったが、ペニスをよく握らされて我に返る。毒々しいほどに力サの開いたペニスがイカ娘に向けて欲望をむき出しにしていた。

おしり
を
しゃぶる

血管の浮いた禍々しい男性器にくらべ、小さく華奢な手指はあまりにも非力に見える。ざざざなくペニスをしごく指がびくんと痙攣した。無遠慮な舌がイカ娘の敏感なクリトリスをとらえ、ねぶつたのだ。

おしりの
クリトリス
を
舐める

ああああ

おしり
を
しゃぶる

んんん
んんん
んんん

んんん

股間から響いてくる波のような刺激に、
歯を食いしばって耐えるイ力娘。
足の指をぎゅう、と握りしめて身体を
硬くする。いかに辱めをうけようと
支配者としての誇りをかけて感じる
わけにはいかない。

男達はけなげな侵略者が
必死に快感に耐える姿を
見ながら興奮を高めていった。
皮肉にも羞恥に耐える
イ力娘の姿こそが男達を
高ぶらせるのだ。

小さな手を汚すように
ペニスがうごめき、その度に
ふくれていく。
いやだ、と思った瞬間には
熱い精液がビュルビュルと
イ力娘の身体に降り注いだ。

それが何かわからず、
イ力娘は震え、股間を濡らした。



ドロドロの精液を浴びせられて放心した身体が、くるりとひっくり返される。尻を突き出せられ、恥ずかしい場所が全て男達の目の前にさらけ出されてしまった。悲鳴を上げる間もなく、男達の節くれ立った指が秘所を襲う。

面白くうちに
やめられな

アナルも
いよいよ
やめられな
せ

すさ
イナ

舌で蕩けさせられた花卉に、つぶつと音を立てて指がめり込む。小さな花卉が引張られ、膣内まで震えているようだった。穴という穴を広げられ、敏感な内側を弄られる。イカ娘は、男達のおそましい指に混ざって自分の触手が花卉を広げる手伝いをしてほろろと気がついたが、もはやどうすることも出来ず、ただ翻弄されるだけだった。

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

びくっ！ びくびくッ！
イカ娘は初めての感覚に包まれた。
身体の中をまさぐられ、かき回され
内側の肉を擦りあげられ
あげたことのない声を漏らした。

はひはひはひ

あはははは

はひはひ

侵略者の誇りもはすでになかった。
ただ牝として身体を襲う快感に飲まれて痙攣した。
あられもない姿を見て興奮した男達が次々と射精する。
敏感になった身体は触手でさえも感じてしまう。
次第に弛緩していく身体が、またもイカ娘を裏切る。
感じすぎて失禁した。尿が男達を濡らしているのだ。
男はそれに興奮し、また射精した。

はひ、はひと息も絶え絶えのイカ娘は
自分のそんな姿が男達の欲望を
さらに煽っていることに気がつかない。
侵略者としての矜持を奪われたイカ娘に
反撃の機会はあるのだろうか？

男達はイカ娘を押さえつけ、身体を蹂躪する

ペニスを奥の奥まで届かせようとすると、小さくてきつい肉壺は、巨大な肉棒にえくられながらも負けじと押し返してくるのだ。イカ娘の身体を動かさないように固定し子宮口まで犯しめくように激しく突き入れる。

ペニスが子宮口を叩くと、イカ娘はのけぞった。反射的に膣壁がギョウウウと締る。

太い肉棒に貫かれ、小さな身体を震わす。

イカ娘の目前にペニスが差し出された。ひっ、と息を吞んで顔を反らそうとするが頭を掴まれて無理矢理突きつけられる。男達はイカ娘の全てを奪うつもりなのだ。眼前でビクビクと波打つペニスは栗の花の臭いがした。

なんてゲソ？
その貧相な触手は！
臭いでゲソ！ 近づけるなでゲソ！
なぜ人間はいちいち弱点を私に見せつけるのでゲソ？
頭が悪いんじゃないイカ？

ならば弱点を攻撃してやるてケソ!
どうだケソ! どうだケソ!
ふふん、効いているてケソね!
苦しそうてケソ!
弱点をさらす人間は馬鹿てケソ!

又フヌブと粘膜が擦れる音が響く。
四つん這いにされ、後ろから買かれるイカ娘は、
さらにその小さな口でも男達のペニスを
舐めさせられていた。

チロチロと舌を出して龟头を舐める。
だが、男の欲望がそんな児童戯で
満足するはずもない。
頭をこつかれながら教え込まされ、
次第に口中深くに
男の物をくわえ込まされていく。
その間も股間にぬぶぬぶとペニスを
突き立てる男の動きは止まる様子はない。

舐められたい
ゆソーイカ娘

こんなもの……こうしてやるてケソ。
この傘みたいな部分の裏が特に
堪えるてケソね?

ふふふ、苦しそうてケソね。
とつとと液をどぼして
私に侵略されるといいじゃないか!
奥まで突かれる度に
龟头が喉に当たる。

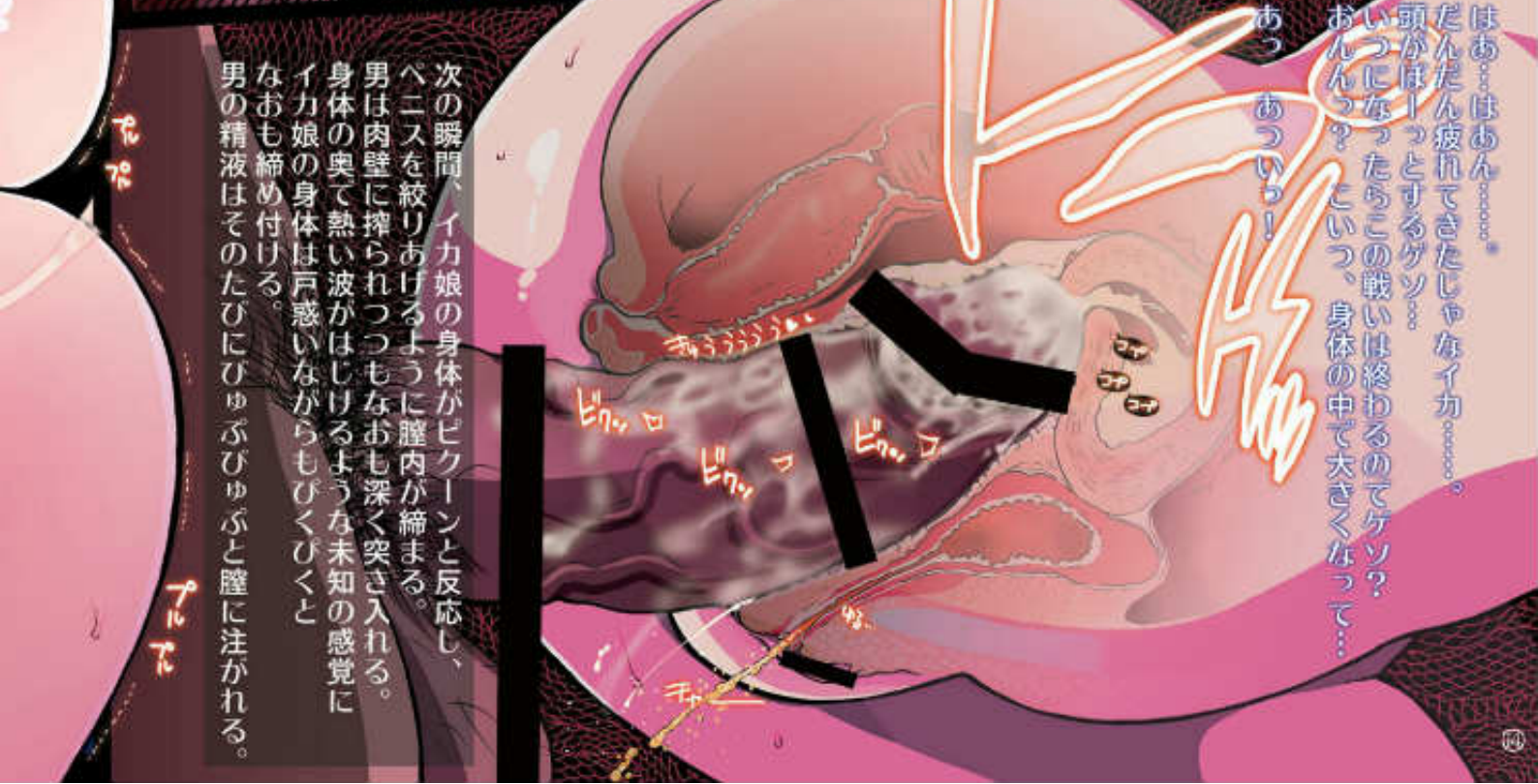
苦しさを紛らわすために
手をあてがう。
それがいつしか肉棒をさすり、
陰囊を揉みだしてしまう。
強制された行為が
次第に奉仕と化していく。

じゅっぶっじゅっぶと
口に溜めた唾液を
ペニスに絡め、
いつしか侵略を忘れて
フェラ天才に没頭する。
後ろから犯す
ペニスが深い。



身体を貫かれた痛みと恐怖で固まっていた身体も執拗なピストンを受けて次第にほぐれていく。イカ娘が時折見せる反応に甘い響きが含まれているのを読み取った男は最後のとどめを放つべく尻に指を差し込みピストンを激しくする。甘い声が漏れる。

身体が馴染んでいく度にペニスへの締め付けがゆるむ。そこを見計らい男はイカ娘の尻に腰を打ち付けるようにして深々と進入してゆく。小刻みに震える尻が可愛らしい。



はあ……はあん……だんだん疲れてきたじやないか……頭がぼーっとするゲツ……いつになつたらこの戦いは終わるのでゲツ？おんん？……といつ、身体の中で大きくなって……あつあつ……

次の瞬間、イカ娘の身体がピクーンと反応し、ペニスを絞りあげるように膣内が締まる。男は肉壁に搾られつつもなおも深く突き入れる。身体の奥で熱い波がはじけるような未知の感覚にイカ娘の身体は戸惑いながらもびくびくとなおも締め付ける。男の精液はそのたびにびゅびゅと膣に注がれる。

熱い樹液を身体の奥に放出され
脳を焼かれるような感覚に悶えるイカ娘。
それがアクメであると気がついた瞬間
イカ娘はばくばくと喘いでいた。
自分が絶頂したことが理解できなかったのだ。

欲望をはき出したベニスが
ズルルツと引き抜かれ、
その感覚があらたな快感を呼ぶ。
休む間もなく新たなベニスが
秘肉を貫いてきた。

ぬぽぽ

あ
は
は

どれほどの時がたったであろう
男達は飽くことなくイカ娘を貪る。
手も触手も全ての穴を犯し精液で汚す。
確認するように秘肉を押し割り
指で精液を掻き出した。
そのたびに尻がふるふると震える。

人間の触手は
液を吐いたら
縮むケツ。
ちやーんとわかっているケン
人間はこの液を吐くと
弱まるケツ。
私厚負けないケツ。
いくらでも中に出すがいいケン

おん

おん

イカ娘はザーメンにまみれ
すすり泣いた。
それでも身体は
男の肉棒を求めてひくつき、
快感を求めてしまっていた。
男達は白濁液まみれになった穴を
クチヨリとかさわけ、
淫猥な光景を楽しむ。
宴は、またこれからだった。

は

は

は

は

「イカちゃん！」

「イカ娘！」

異変に気がついた女達が駆けつける。

大勢の男達がイカ娘を取り囲み、思うさま凌辱している。

それを見て取ると、女達はキッと男達をにらみつけた。

「よくもイカちゃんを！」

しかし、女達ははたはたと倒れていく。

対侵略宇宙人用兵器、スーパーショックカンの一撃だった。

唯一の助けが男達の手に落ちたのを知っても

どうすることもできず、

イカ娘は悲しそうに男のペニスを

舐めしゃぶるしかなかった。

なんだかわからなくてゲソが、いつの間にか邪魔者が

みんなそこらへんに転がっているじゃないか？

この男達がやうたのてゲソか？ 人間同士じゃないか！

まあいいでゲソ！

これで残る障害はこやつらのみじゃないか。

あの白いべんな液を出させる度に

愚かな人間どもよ、

今のうちにせいせいせい楽しむがいいでゲソ！

ゲソゲソゲソゲソ！

ぐちゅちゅずるるっ……

薄明かりの中、淫靡な音が響く。めらめらとした粘液に包まれた触手が床や壁を這いずりまわる。

イカ娘の白い肌に照らされるように丸く浮かぶのは、女達の尻である。触手がうごめき、尻を割って女を犯す。

その度に聞こえるのは、あえぎ声とも悲鳴ともつかぬ官能を揺さぶる淫らかな声だ。た

声を楽しみつつ、男達はイカ娘に射精する。何度も。幾度となく欲望をはき出し、精子にまみれた裸体を見れば再び射精する。

男達に操られるままに触手はイカ娘本人を騷り、恥辱にまみれさせる。今は垂れ落ちるほど注ぎ込まれた精液をかき出し

ことさらに本人を辱めるようにぐちゅちゅと泡を立てて陰部を責めている。

屈辱に耐えるイカ娘の口に、一本の触手が滑り込んでいく。イカ娘は、熱い吐息を一つ吐き出し、鼻を鳴らしてその触手を舐め始めた。

それにしては、男達の私の穴に

対する執着は異常でケソ。人間の牝の穴にも触手を入れまくっているところを見ると

穴ならなんでもいいのでケソか？しかし人間の股間は毛が生えていてなんかほっちいでケソ

私の綺麗な股間のほうがやはり穴として上なのでケソな触手さえ自由になれば、世界征服は成ったも同然でケソ。

触手さえ動けば……。しかし触手が十本以上ないか？もうどうでもいいような気がするケソうっ！アソコが熱いてケソ……

負けないでケソ！いつか必ず世界を征服してやるでケソ！

触手さえ動けば、
人類なぞたちまち
征服してやるでゲソ！



イカがなものか？

発行
松本ドリル研究所

連絡先
doriken2@mail.goo.ne.jp

著者
ながの～ん・なす

印刷
AXIS出版株式会社

ADULT ONLY

イカ娘陵辱・触手責め



見知らぬ男達とみずからの触手がイカ娘の秘壺を騷り尽くす